



新聞會

第六号



明治八年六月八日午前十時を以て東京浅草新谷町佐友藤造が留主小凡の終吉が泊屋合せ
 たり更行夜ハ巾着丸物音起て見つゝ蚊屋かに乗せ掛つる泥捧の掬ひ内か
 著物を脱ぎ赤裸にて逃げ出るを追うけ行け とも終吉が病の跋をうきまのみ見失ひし
 行足が空に短夜物がり跡のとり
 見とやうふ物を捨て置きあちの

泥捧の本綿袷と三尺帯盤金
 一品も取られぬ小能くマアんふ分挿を

小作夜

ハ尾善な

ハリ平三

目く新聞
六号馬

文
花堂誌